

る場合及び混合比が一定の場合は染着量の増加にしたがって彩度を増し明度を低下するが、主波長の変化は比較的少なく、また、混合比を変化させた場合は夫々の染料の染着量の割合につれて主波長が変化するが、彩度の変化はあまり大きくないことが認められた。

35 混合酸性染料により染色した絹布の測色

大阪市大 中垣 正幸
島崎 斐子

1 実際の染色には染料を単独に用いることは稀であり、2種以上の染料を用いて染色する場合が多い。染料の混合により所望の色を得ることは経験的特技とされているがこれを科学的に究明するために本実験を行った。

2 本実験では酸性染料として *Metanil Yellow* 及び *Roccelline* を酢酸ソーダ、アルコール法により純度92%以上に精製し用いた。これら2種の染料の混合系により混合比及び濃度を変え、70°Cにて絹を染色した。この染色布を暗処で室内乾燥し測色試料とした。測色はGE製自記分光々度計を用いた。

3 実験に用いた酸性染料にて染色した絹布の色彩をCIE表色法にてあらわすと、染料を夫々単独にて用いた